

### ネギでネギアザミウマの被害が多くなっています 圃場をよく観察し，防除を徹底してください

[現在の発生状況]

① 5月下旬現在，ネギ(夏ネギ)におけるネギアザミウマ(写真1)の被害度<sup>1)</sup>(本年値 46.6, 平年値<sup>2)</sup>20.4)，被害株率(本年値 99.5%, 平年値 45.8%)ともに過去11年中1位と平年より高い(図)。

1) 被害度は，葉身の食害程度をもとに算出した値。最小値は0，最大値は100となる。

2) 平年値は過去10年間(平成17～26年)の平均値

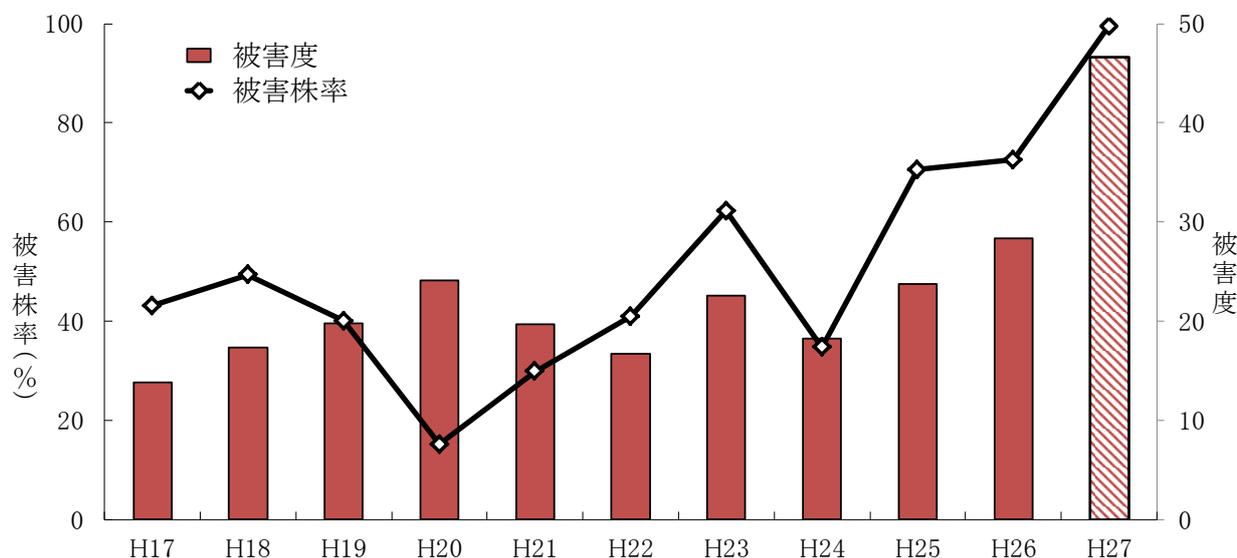


図 5月下旬の巡回調査におけるネギアザミウマの被害度および被害株率の年次変動



写真1 ネギアザミウマ成虫



写真2 ネギ葉身の被害

[防除対策]

- ① 発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。
- ② 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では表を参考に速やかに防除を行う。なお、農薬を散布する際には使用回数、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 防除後も、土中の蛹が新たに羽化したり、葉内に産み付けられた卵が孵化するので、多発生した場合は1週間間隔で複数回防除する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 県内ではピレスロイド系剤（IRACコード：3A）の殺虫効果が低いネギアザミウマが確認されているため、使用した際には必ず効果を確認する。
- ⑤ 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。

表 ネギのネギアザミウマに登録のある主な薬剤(平成27年6月10日現在)

薬剤名	希釈倍数 (倍)	収穫前日数 - 本剤の使用回数	成分名	系統名	IRAC コード <sup>1)</sup>
アドマイヤーフロアブル	2,000～ 4,000	14-2	イダクロプリド	ネオニコチノイド系	4A
アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	2,000	3-2	ジノテフラン		
アグリメック	500～ 1,000	3-3	アバメクチン	マクロライド系	6
ディアナSC	2,500～ 5,000	前日-2	スピネトラム		
ダイアジノン乳剤40	700～ 1,200	21-2	ダイアジノン	有機リン系	1B
ハチハチ乳剤	1,000	3-2	トルフェンピラト	その他	21A
プレオフロアブル	1,000	3-4	ピリダリル	その他	un

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。  
系統名より細かく分類されている。

なお、IRAC作用機構分類については、農薬工業会ホームページの農薬情報局「農薬の作用機構分類」を参照。  
※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。